熊本女子大学学報

No. 2 昭和45年3月27日(金)

発行所 熊本女子大学
熊本市大江二丁目七番一号
TEL 66－2201
編集発行人 熊本女子大学広報委員会

新しい生命

熊本女子大学長 村 中 末 吉

弥生の三日、紅梅の花の咲き匂う日、二百五十四名の第18回卒業生を校門から社会へと送った。そして、陽春四月、大学講内の木々は芽を吹き、美しい花が咲いて観喜に充ちているとき、若い力にあふれた新入生の諸子を迎えて、大学は新しい生命の躍動を覚えるようである。

多くの期待と希望とをもって、大学に入学された新入生の諸子に対し、こころから歓迎の意を表わしたいと思う。そして、四年間の大学生活が実り多いものになるようにと祈らずにはおられない。

大学は最高の教育研究の機関である。大学生の数は戦前にくらべて数十倍に増加してはいるが、それでも国民の人口から見れば少数である。やはり、大学生活を送りうる者は選ばれたものであり、また恵まれた者といわなければならない。大学に学ぶことは、如何に恵まれたことか、また幸福なことかを忘れないでほしいと思う。

大学生活は青春の完成期であり、人格を形成し、教養豊かな成人として、社会に巣立つ準備をするところである。大学においては、高い知性と清純な品性とを養い、さらに創造と応用の力とを豊かに養うために、自主的に学ぶ態度が望ましい。さらに進んで、クラブ活動などによって相互の啓発をなし、互に協力しあって豊かな人生体験を重ねることが望ましい。

学生は学問することによって、学問の方法が理解され、人間観や価値観の把握もできるのである。学生は勉学のため大学に入学にしたものであって、大学の運営に参加するために大学に入学したものではない。勉学することによって、大学入学の目的が達せられるのである。

一部には、何らの実証もせずに本学の教育は花嫁教育だという者がある。花嫁教育ということばの概念が明確ではないが、ただ花嫁教育という点から批判するのは、結局は学生が勉学に熱心でないことをいっているものであろう。

新入生の諸子は、学生の本分である勉学に日夜努力せらるゝよう心からおねがいしたいと思う。

第18回熊本女子大学卒業式における知事挨拶（要旨）

一昨年から昨年にかけて大学騒動が全国的に旋風のように吹きまくったが、皆さんはその間でも着実に落ちついて勉強され、きょう揃って卒業される、まことにおめでたいこととおよろこび申し上げます。

皆さんのように知性と教養を身につけられた多数のかたがたを社会に受け入れることができたことは非常なよろこびであります。

県立の女子大学を持ってよかったなということをきょうの卒業式にのぞんでしみじみ感じます。

私は大学を出て38年目になります。大学を卒業した年のことがいちばん克明に印象に残っております。

昭和7年の卒業でありますが、その年は5・15事件と犬養総理が海軍の軍人に暗殺された年でありましたあれから日本のファッショ体制が進行してとうとう国を滅ぼすまでにいたった出来事でした。

皆さんの卒業の年にあのような不吉なことがあってはならんと思います。

ことしは人類の進歩と調和をテーマにした万博の開かれる年であります。

おそらく皆さんの印象には、自分たちの卒業した年はあの万博があったということが長く印象に残るだろうと思います。

世の中には混乱や破壊がないと進歩がないように思い込んでいる人もだいぶんあるようです。しかし私共は、自分のいままで過してきた人生の体験からいって革命のような破壊や混乱がなくても世の中は進歩するし、人類は幸福になっていくものだと確信をしております。

皆さんが、日本が平和でおだやかで、混乱や破壊がなく進歩が続けていけるように、社会の一員として貢献くださることを心から念願いたしております。

学生部長就任のことば

阿　波　保　喬

新入生の皆さん入学お目出とう！

今回乙益教授の突然の転出により、私が学生部長の職を受け継ぐことになりました。若輩の未熟者としてどうすれば学生の皆さんから信頼され又先生方の期待に応えることが出来るかと目下苦慮しています。（何も考えられず唯うらめしいというのが実状に近いかも知れません。）学生部の仕事は複雑で多岐にわたり、それを今後どのような方針で処理していくのか、今は申さないことにします。

そもそも大学は学問の場であり実践する所ではありません。従って実践は大学の外の実社会でなされるのが適当かとも思われます。（勿論実践の伴わない学問など考えられないかも知れませんが。）私達の大学も現在色々の問題を抱えていますが、一つ一つ、急がず焦らず着実に解決に向いたいと思います。4月1日に職についたばかりで、新入生と同じフレッシュマンです。フレッシュマンの気持で皆さんと一緒に考えましょう。最後に現在の私の心境を申しますと、「学生の皆さんに信頼され愛されたい。しかし、軽蔑されるよりは憎まれたい」というところです。

熊本女子大学を辞するにあたって

乙　益　重　隆

私が熊本女子大学に着任したのは、昭和24年4月1日であった。当時の大学は熊本城の本丸町1番地、今の熊本城大天守閣前の広場にあった、旧第六師団司令部の建物を借用していた。すでに熊本女子専門学校の第1回生と第2回生は在校していたが、図書館にはかぞえるほどしか本がなく、実験・実習施設もなく、まったく無い無いづくしの状態であった。当時は校舎内の各所に「下駄履を禁ず」という掲示が出ていたのも印象的である。

その後昭和25年5月には、現在の大江町にあった旧軍の施設、西部第16部隊の営庭に新築校舎が出来上り全学をあげて引移った。あれから21年。熊本女子大学はめざましい発展を遂げた。大学の発足とともにあゆんで来た私にとっては、まさに感無量の想いである。当時新進気鋭の意気にもえておられた先生方も、定年をむかえられ、多くの方が大学を去られた。すでに亡くなられた方だけでも8名の多きにのぼる。

この度私は一身上の都合で、母校、国学院大学文学部史学科の考古学担当教授として移ることになった。本学とともに苦楽を共にして来ただけに、後髪をひかれる想いがする。しかし人生は一度あゆみ出したら後退はできない。前進あるのみである。私もこれから新しい任務と研究に、まっしぐらに進む覚悟である。

私は昨年11月1日、はからずも学生部長を命ぜられた。あれからわずか五ヶ月間ではあったが、いろいろな事があった。或る時は自治会執行部のメンバーと話し合って結論が出ず、或る時は学寮生と協議して実りがなく、まことにめまぐるしい毎日であった。現在なお本学には幾つかの宿題が残されている。それらの宿題をかかえたままで、本学を去るのはまことに心苦しい。

しかし私は去るにあたって一言のべたいことがあるそれは何ごとに限らず「物事にはすべて限界がある」ということである。われわれはその限界をみつめて物事を考え、かつ行動すべきではなかろうか。もちろんわれわれには、いつの場合でも数かぎりない不平不満がある。その不満をむき出しに訴えたところで、今すぐどうにかなるものではない。アンバランスの中に一応の安定をもとめ、その安定の中から新しい進路の第一歩を見出すべきではなかろうか。全国的な大学の激動期にあたって、短期間ながら学生部長の要職をつとめ、体験的におもい知らされたことをここに訴えるものである。

最後にあたって熊本女子大学の発展と、みなさま方の御健闘を念ずるものである。

各学科だより

国文科だより

国文学科の新入生の皆さんのために、国文学科の紹介を致しましょう。

まず、国文学科所属の先生方は次の通りです。

山本捨三教授　現代文学担当　学部長　京都大学出身

本田義彦教授　国語学　万葉集　源氏物語を中心とした上代文学担当　学科主任　京都大学出身

古沢未知男教授　中国文学担当　三年生補導委員　東京文理大学出身　文学博士

迫　徹朗教授　国文学　枕草子を中心とした中古文学担当　四年生補導委員　東京大学出身

神部宏泰助教授　国語学担当　特に方言を中心としたもの。二年生補導委員　広島大学出身

一瀬幸子助教授　江戸時代担当　近松・西鶴を中心としたもの。一年生補導委員　本学同窓会会長　本学第1回生　中央大学大学院出身

枝元みそら助手　国文科全般に関する事務担当　本学第1回生

なお、国文学には、学生を中心とした研究・懇親を目的とした「国文談話会」があります。春秋2回の文学遺跡見学旅行。年1回の雑誌「国文研究」の発行などが主な仕事です。「国文研究」誌は学生の皆さんの研究論文の発表機関としてユニークな存在です。「国文談話会」については、委員の人から詳しい説明があるはずです。

また、各種研究会、たとえば「万葉集研究会」「源氏物語研究会」など、大いに活動してもらいたいのですが、今のところ期待に程遠い有様です。この方面でも、新入生の皆さんを大いに歓迎する次第です。

（文責　本田）（45・3・20記）

英文学科より

この1、2年の間に、本学英文学科の創設・確立に尽瘁された諸教官の大幅の異動を見、いま、少壮気鋭の教授陣により英文科は新たな出発が期待されている。ここに、まず、英米文学専攻新入学生への学科案内及び心構えをのべ、所感の一端にもふれてみたい。

文学研修は深い広汎な教養の助けをまって初めて可能となる。従って、一般教育科目の選択履修に当っては特に留意せねばならぬ。専攻課程に進めば、まず、文学史により英米文学の歩みを知り、批評文学、文学概論によって文学理論が教授される。作品研究、演習などの履修は、さらに、これらの具体的・実証的習得を促すことになる。外国文学の研修は、単に、文学のための文学研究に止まらず、例えば、米文学が「アメリカン・スタディズ」の一分野を構成していることも銘記されねばならぬ。また外国文学の研修は、その国語の厳密・正確な読解を必須とする。これは主として語学関係諸科目の履修において習得されねばならぬ。

以上諸学科目の授業と並行するプラクティカルな側面として、英作文、外人講師による英会話、さらに、英語科教育法、時事英語研究及び英文タイプ講習が実施され、コレスポンデンスなど、実務英語の教育も目下企画中である。

先述、本学科の新出発は、まず、学究的態度の強化において示されるであろう。それはアカデミズムに堕することなく、変革不安の時期にあって、厳正真摯な学問研修の遂行の中に、自らの行動・思考の基盤を見出そうと志すものであり、クラスの細分化授業の実施により醸成される学生・教官の緊密な連帯の中に、すでに、所期の成果が期待されている。（井芹龍成記）

第17回日本家政学会九州支部開催

日本家政学会九州支部が発足したのは昭和29年で、その発会式と第1回総会は本学で開催された。その後総会は九州の各県をめぐって毎年開催されてきたが、今年は第17回総会が来る4月26日（日曜）に再び本学で開催されることになった。

発足当時の会員は34名、研究発表7で研究発表会場は1会場でことたりたが、現在は会員 320名、研究発表予定も60に達し、研究発表会場は3会場を必要とすることになり、次のような日程で行なわれる。

日　程

研究発表　9.00——12.00
（被服関係　西講堂・食物関係　一番教室・家庭管理その他　理科教室）
昼　食
研究発表　13.00——14.30
（会場は午前に同じ）
総　会　14.30——15.30
シンポジウム　15.30——16.30
（西講堂）

シンポジウム　生活革新と家庭生活

民主的家族関係　熊本女子短大　宮島真一先生
住宅デザインと工業化　熊大工学部　福原昌明先生
肥満の原因と治療　熊大医学部　上野留夫先生

当日は九州全土の大学関係および熊本県内の小・中・高校の家政学関係の先生方を多数迎えるので、皆様方のご協力をお願いしてやまない。（野口サキ）

食物学科の動向

○昭和45年度は食物学科に大田原幸人先生（医学博士）と石本京子先生（農学博士）が着任され、大田原先生は食品衛生学等を、石本先生は食品化学等を授業されます。

○本学には食物学科を管理栄養士養成課程（仮称）とする申請のための準備委員会が設けられています。

委員会は本年9月に申請をするための協議を重ねていますが、よりよき管理栄養士養成ができる構想は4月頃にはまとまる見込みです。

教務課だより

○ 昭和44年度卒業生

3月10日現在の昭和44年度卒業生は、次のとおりである。

学科名／卒業者数	家政学科	食物学科	国文学科	英文学科	計	備考
卒業者数	74名	60名	65名	56名	255名	

昭和24年度創立以来の熊本女子大学卒業生の累計は2727名となった。

○ 昭和45年度入学試験状況

学科別入学志願者、受験者、合格者数の状況は、次のとおりである。

学科別入学志願者、受験者、合格者数

学科別／志願者数等	家政学科	食物学科	国文学科	英文学科	計	備考
入学志願者数	180名	225名	201名	235名	841名	
欠席者数	31名	61名	31名	54名	177名	
受験者数	149名	164名	170名	181名	664名	
合格者数	61名	57名	60名	56名	234名	

○ 昭和45年度願書受付状況

去る2月2日（月曜日）から2月14日（土曜日）に至るまでの間昭和45年度入学願書の受付を行なったが入学志願者は、841名であった。

この志願者数は、昨年の913名に比較し72名減り、一昨年の1380に比較すると539名減少した結果となった。

出身高校の府県別状況をみると次のような状態であった。

熊本県内が496名、県外が345名であり、県外の府県別をみると、福岡県109名、大分県50名、鹿児島県47名、佐賀県42名、長崎県26名、宮崎県21名、山口県20名、その他30名であった。

この県内、県外別の状況を昨年と比較してみると県内が55名減り、県外が17名減であった。

競争率は、家政学科は36倍、食物学科5.5倍、国文学科4.1倍、英文学科5.7倍であり、平均競争率は4.67倍と昨年（5.07倍）を大きく下回った。

○ 昭和45年度授業歴

4月1日	学年ならびに前期始め
4月9日	新入生オリエンテーション
4月10日	入学式
4月13日	前期授業開始
5月2日	開学記念日
7月11日〜9月10日	夏季休業
9月11日	夏季休業あけ授業開始
10月3日〜10月9日	前期定期試験
10月19日	後期授業開始
10月25日〜1月10日	冬季休業
1月11日	冬季休業あけ授業開始
1月下旬	第4年次後期定期試験
2月下旬	第3年次以下定期試験
3月3日	卒業式
3月25日〜4月10日	春季休業

人事異動

退職者

学生部長 教授	乙益　重隆	45・3・31付退職 国学院大学へ転出
教授	内田　辰雄	45・3・31付定年退職
同	立山　征	〃　同 熊本工業大学へ
〃	柳下　一愛	45・3・31付退職 山口大学農学部へ転出
助手	前野　順子	45・3・31付退職
教務職員	渡辺　尚子	45・3・31付同

新任者

教授	太田原幸人	45・4・1付採用
助教授	石本　京子	〃
助教授	生野　一路	〃
講師	池田　勝昭	〃
助手	園田三和子	〃
教務職員	永田　暁子	〃
同	杉本　倶子	〃

昇任者

教授	井芹　龍成	45・4・1付昇格
同	平戸　喜文	〃
助教授	一瀬　幸子	〃
同	城島　邦行	〃
講師	東矢　直	〃
同	太田　直一	〃
同	重松　隆矣	〃
助手	服部　勝子	〃

前学生部長乙益重隆教授3月31日付をもって退職されたので、後任学生部長として、阿波保喬教授が4月1日付で発令された。